

伸びゆく街、伸びゆく路線。



私のメリーゴーランド地下鉄。

横浜市営地下鉄 開業10周年。



横浜市交通局



ラッシュでにぎわう地下鉄横浜駅

横浜に地下鉄が誕生してから、今年で満10年。いま横浜～上永谷間で、毎日約13万人の方にご利用いただいています。

地下鉄は、市民生活にとって欠くことのできない基本的な都市施設であり、また21世紀に向けて、新しい横浜をつかっていくために、路線をさらに伸ばしていかなければなりません。

しかし、一方では膨大な建設費を必要とします。市民のみな

さんに多大なご負担をかけることなく建設するにはどうしたらよいか。これが最大の課題です。

これから、地下鉄を整備していくためには、「地下鉄は地下」という先入観にとらわれることなく、将来を見通し、時代にあった新しい発想を追求していかなければなりません。



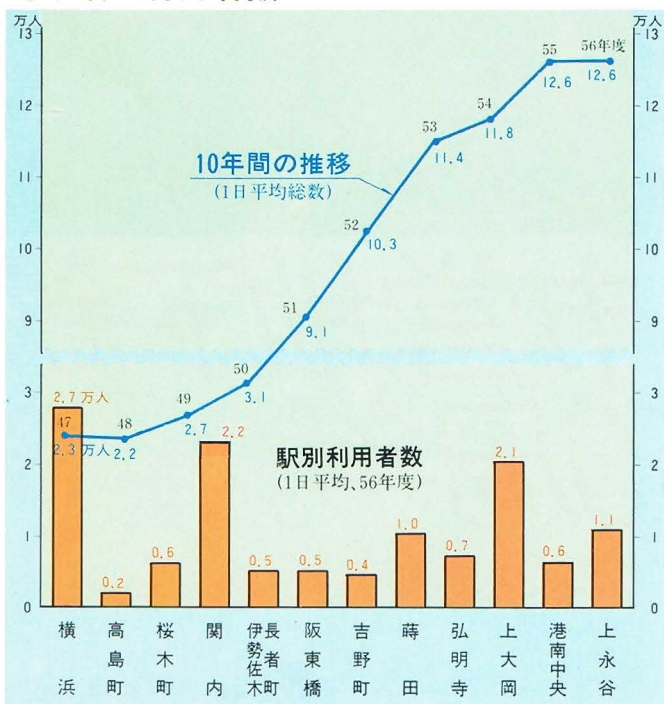
昭和57年12月 横浜市長

細郷 達一

地下鉄の営業概要

営業キロ数	11.5km
駅数	12駅
車両数	70両(5両編成・14列車)
運転回数	平日148回、休日125回
運転間隔	朝ラッシュ5分、日中8分、タラッシュ6分
利用者数	1日約13万人

地下鉄の利用者数



普通運賃表と駅間所要時間

上永谷	港南中央	上大岡	弘明寺	蒔田	吉野町	阪東橋	伊勢佐木長者町	関内	桜木町	高島町	横浜
120	120	120	120	120	120	120	120	120	120	120	120
140	140	140	140	140	140	140	140	140	140	140	140
160	160	160	160	160	160	160	160	160	160	160	160
180	180	180	180	180	180	180	180	180	180	180	180

(大人運賃、単位：円)

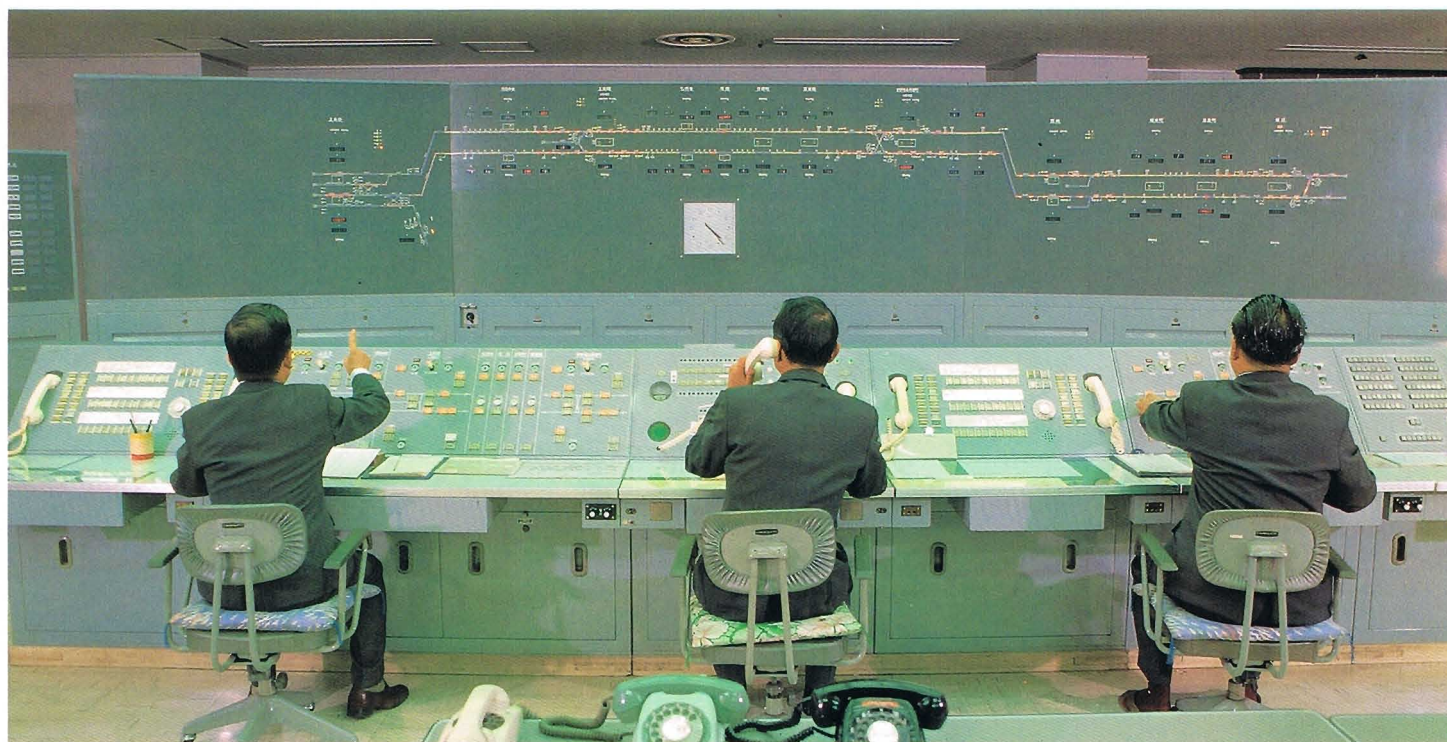
運賃表(普通券、定期券)

区 分		1 区 (3キロまで)	2 区 (6キロまで)	3 区 (9キロまで)	4 区 (12キロまで)	
普通券	大 人	120円	140円	160円	180円	
	小 児	60円	70円	80円	90円	
定期券	通 勤	1 か月	4,680円	5,340円	6,000円	6,660円
		3 か月	13,340円	15,220円	17,100円	18,990円
	通学(甲) (中学生以上)	1 か月	3,240円	3,660円	4,080円	4,500円
		3 か月	9,240円	10,440円	11,630円	12,830円
	通学(乙) (小学生以下)	1 か月	1,620円	1,830円	2,040円	2,250円
		3 か月	4,620円	5,220円	5,820円	6,420円

駅のあらまし

駅名	構造	ホーム			深(高)さ (地表面から ホーム面まで)	出入口数	改札口数	エスカレーター数	延面積
		型式	長さ	幅					
横浜	地下3階	島式	120m	10.0m	14.3m	11カ所	2カ所	2台	9,030㎡
高島町	地下4階	相対式 (シールド)	120m	3.5m	26.0m	2	1	6	4,050㎡
桜木町	地下4階	島式	120m	10.0m	20.8m	3	1	3	4,870㎡
関内	地下3階	島式 (2面)	120m	10.0m	17.5m	8	2	4	15,160㎡
伊勢佐木長者町	地下3階	島式	120m	7.7m	15.5m	6	1	2	7,500㎡
阪東橋	地下2階	島式	120m	7.2m	13.7m	5	1	0	3,910㎡
吉野町	地下2階	島式	120m	8.4m	10.2m	4	1	0	3,560㎡
蒔田	地下2階	相対式	120m	4.6m	10.8m	2	1	0	3,030㎡
弘明寺	地下2階	相対式	120m	上り 5.3m 下り 5.5m	9.8m	2	1	0	3,030㎡
上大岡	地下2階	島式	120m	10.0m	10.5m	5	2	1	6,770㎡
港南中央	地下2階	相対式	120m	6.0m	11.3m	2	1	0	3,390㎡
上永谷	地上3階	島式 (2面)	120m	6.4m	地上 11.5m	2	1	0	4,840㎡

列車の安全運行



トンネル内を高速で走行する列車の運行管理及び運転保安は、CTC、ATC方式を採用し、事故防止に万全を期しています。

CTC装置

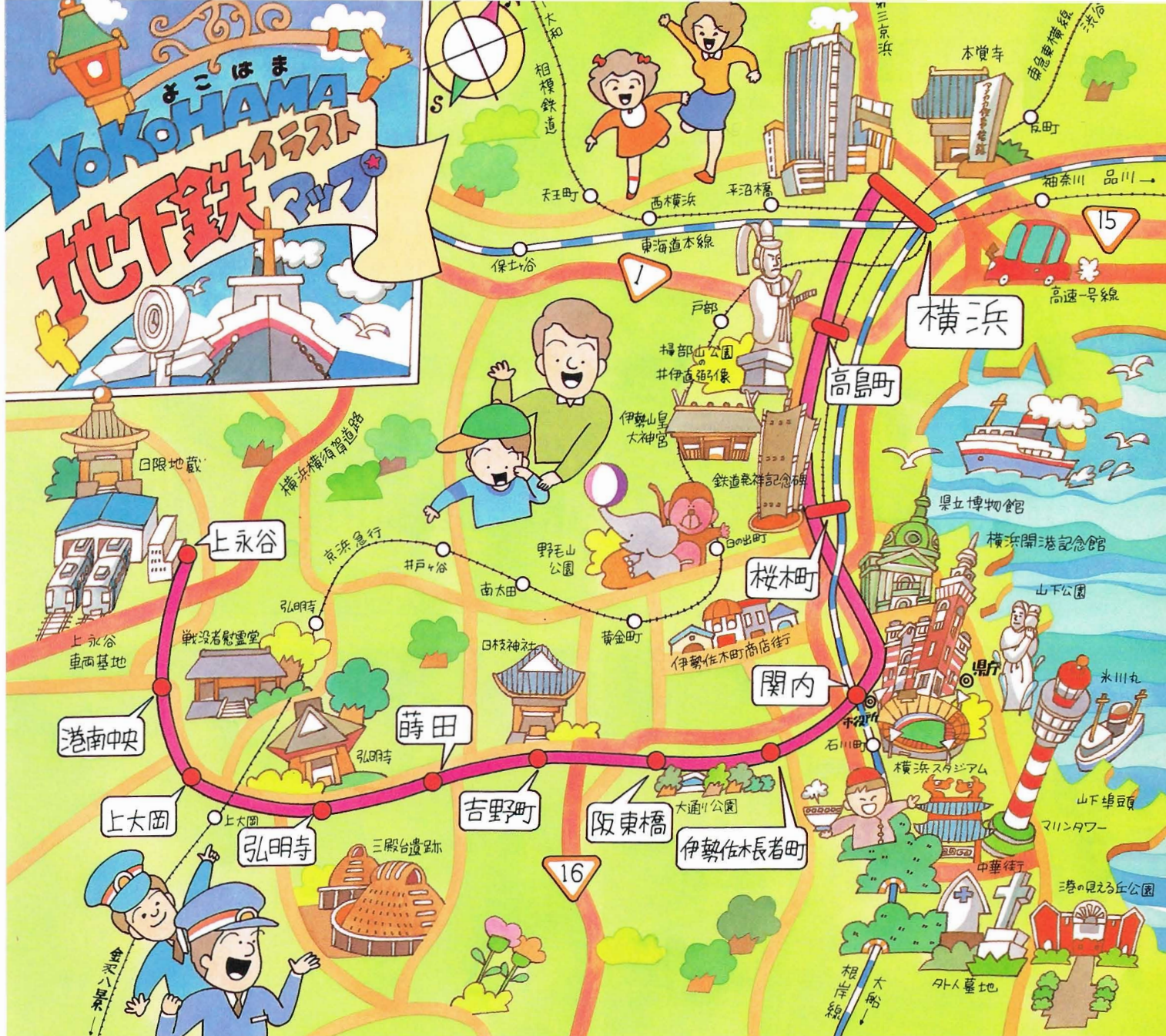
列車集中制御装置のことで、この装置は関内駅近くの教育文化センター10階の運転指令所に設置してあります。ここでは全列車の運行状態がひと目でわかり、各駅の信号やポイントを集中制御して運行を管理しています。

また、列車や各駅いつでも通話ができ、直接指令を行うとともに、緊急時には電車線の非常停電や列車の緊急停止などによって安全を守ることができます。

ATC装置

本市地下鉄全線に採用している自動列車制御装置のことで、この装置は電子頭脳により列車の進行、減速、停止を制御し、列車の速度を常に適正なものに自動コントロールするものです。

運転士が、万一制限速度をこえたり信号を誤った場合でも、直ちに非常制動がかかり、列車の安全がたもたれるようになっています。



地下鉄の経営

● 増加する一方の建設費

地下鉄は、道路下や民地下を掘って建設していかなければならないので、地上を走る鉄道よりずっと多額の建設費を要します。現在工事中の上永谷～戸塚間(3.6km)及び横浜～新横浜間(7.1km)は、1kmあたり170億円以上も見込まれています。この建設費を既に開業した区間に比べると、47年開業区間(上大岡～伊勢佐木長者町)では約50億円、51年開業区間(上大岡～上永谷間、伊勢佐木長者町～横浜間)では約110億円でしたので、この10年間で3倍以上になっています。

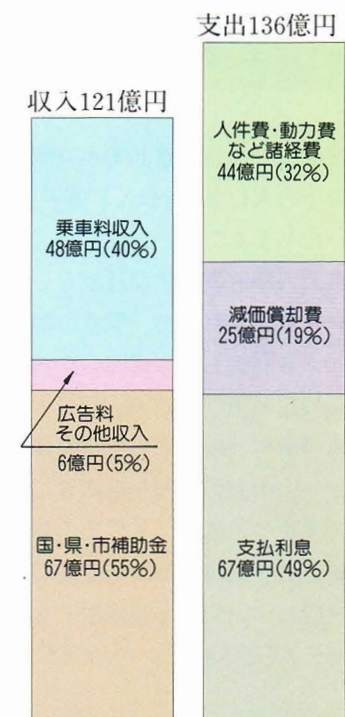
● 建設資金は借金で

地下鉄を建設していく資金は、国や銀行等からの借金でまかっています。56年度では、260億円借りましたが、それ以前に借りた分を含めると56年度までで1,420億円がまだ返済していない借金総額となっています。この返済が今後の地下鉄事業経営にとって大きな課題となっています。

● 建設費に対する補助金

建設に要した費用をすべて利用者に負担してもらうと相当高額の運賃になってしまい、とても公共輸送機関とはいいがたくなるので、建設費に対して国の補助制度がもうけられています。この制度は逐次改善され、現在では総建設費の実質約60%を国と市(一般会計)とで $\frac{1}{2}$ づつ補助することとなっています。しかしながら建設費がますます増加していく現状から、より一層の補助制度の拡充が図られるよう国に要望しているところです。一方、地下鉄事業を進めていくにあたっては、安全性、快適性に十分配慮しながらも創意・工夫をこらして、できるだけ安くまた合理的に運営していかなければなりません。

現営業区間の経営状況(56年度)

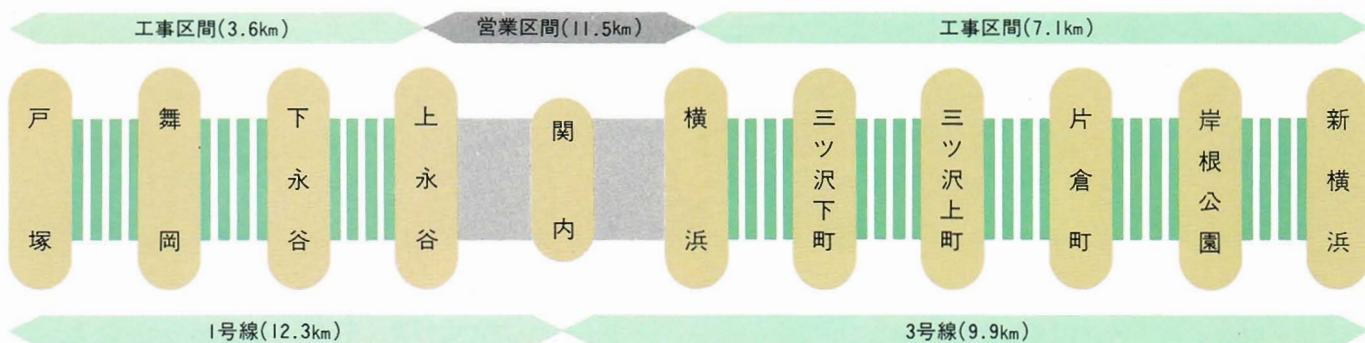


横浜市の地下鉄建設計画

横浜市の地下鉄建設計画は、路面交通の混雑緩和と既存鉄道ではカバーしきれない地域の足を確保していくとともに、郊外部と市街地を直結し、郊外部の計画的な開発や都心部の再開発等を促進し、横浜市の都市機能を一層高める目的をもって、昭和41年に全体計画4路線67.8kmが策定されました。

このうち、緊急に建設する路線として、1・3号線に焦点を合

わせ、その早期完成を目ざしており、現在1号線上永谷～戸塚間(3.6km)及び3号線横浜～新横浜間(7.1km)の建設工事を進めています。これらの区間が完成すると、現在営業している横浜～上永谷間と合わせて22.2kmの運転区間となり、新横浜、戸塚で国鉄線と連絡できるなど市民の皆さんにとって大変便利な足となるでしょう。



トンネル工事が完成した舞岡駅



完成間近なミツ沢上町駅

将来の鉄道網

——よこはま21世紀プラン——

横浜市では、西暦2000年(昭和75年)を目標年次に、この時の市の人口を328万人と推定し、よこはま21世紀プランを策定いたしました。

横浜の鉄道網の長期目標として、現在の東京中心の交通体系を是正するために、横浜の都心部を中心とする鉄道ネットワークを形成し、首都圏の中核都市の実現をめざしております。このため横浜市は、地下鉄1・3号線の建設を進めるとともに、東神奈川～根岸間の鉄道新線、4号線鶴見～港北ニュータウン～中山間の整備を進めることとしました。さらに、1号線の県央への延伸、3号線の新百合ヶ丘方面への延伸、相鉄～新横浜～川崎～羽田空港間の鉄道新線、市域を環状に結ぶ環状線について、今後検討することとしました。また新交通システムとして金沢シーサイドラインを整備していきます。



横浜市営地下鉄のあゆみ



◀起工を祝う市民の集い
(43.10.1)

地下鉄1号車搬入▶
(46.3.17)



◀上大岡～伊勢佐木長者町間
開業(47.12.16)

上永谷駅開業を喜ぶ市民▶
(51.9.4)



◀横浜～新横浜間起工式
(55.2.4)

- 昭和41年7月15日 都市交通審議会（運輸大臣の諮問機関）が「横浜及びその周辺における旅客輸送力の整備増強に関する基本計画について」、横浜市が建設すべき路線を答申。
- 昭和41年10月11日 上記路線の建設計画を市議会が議決。
- 昭和41年12月27日 横浜公園内で地下鉄起業式を行う。
- 昭和42年3月17日 上大岡～関内間及び横浜～山下町間の事業免許（鉄道業を営むための運輸大臣からの基本的免許）取得。
- 昭和43年10月1日 上大岡で起行式。同時に横浜文化体育館で「地下鉄の起工を祝う市民の集い」開催。
- 昭和46年3月13日 上大岡～上永谷間の事業免許取得。
- 昭和46年3月17日 蒔田町内で地下鉄1号車の搬入を行う。
- 昭和46年3月30日 地下鉄のシンボルマークが一般公募によって選定され制定なる。
- 昭和47年3月31日 市内から路面電車およびトロリーバスが消える。
- 昭和47年9月16日 台風20号の影響で伊勢佐木長者町駅付近のトンネルが冠水し開業が遅れる。
- 昭和47年12月16日 上大岡～伊勢佐木長者町間営業開始。（運賃初乗り40円）伊勢佐木長者町～県庁前間で無料の循環バスを運行。
- 昭和51年9月4日 上大岡～上永谷間及び伊勢佐木長者町～横浜間が開通し、上永谷～横浜間で営業開始。（運賃初乗り60円）
- 昭和51年12月11日 上永谷～戸塚間の事業免許取得。
- 昭和52年3月4日 運賃初乗り70円。
- 昭和52年6月15日 上永谷車両基地の整備に伴い、3両編成から5両編成へ増強。
- 昭和53年10月1日 運賃初乗り90円。
- 昭和54年1月19日 横浜～新横浜間の事業免許取得。
- 昭和55年2月4日 岸根公園内で横浜～新横浜間の起工式を行う。
- 昭和56年5月16日 運賃初乗り120円。
- 昭和56年12月25日 よこはま21世紀プラン策定。
- 昭和57年6月16日 戸塚駅東口の再開発事業との関連で懸案となっていた戸塚駅工区の起工式を行う。
- 昭和57年11月20日 上大岡駅に中央出入口が開設。
- 昭和57年12月16日 地下鉄開業10周年記念日。

安全・快適な旅行は市営観光バスで!!

●市内定期遊覧バス

座席指定の市内観光バスと港内遊覧船でミナト・ヨコハマの情緒を満喫する遊覧コース。中華街でお食事、三溪園、港の見える丘公園、外人墓地、山下公園の散策と横浜開港資料館の見学、大仏記念館の自由見学等。

●貸切観光バス

楽しいグループ旅行、会社、団体等のご旅行には安全快適な貸切観光バスをご利用下さい。

●会員募集旅行

常に斬新な企画と低廉な料金でお客様を魅了する会員募集旅行にご参加下さい。



《お問い合わせ先》

関内観光バス案内所
TEL.(045)671-3192～3
横浜駅東口案内所
TEL.(045)441-3360



横浜市営地下鉄の シンボルマーク

（横浜市民の一般公募により、昭和46年3月30日に制定。地下鉄駅出入口に表示されています。）